

腰刀五柄 摺紙扇三十柄

硫黄三千斤 今二千五百斤正と報ず

大青盤二十個 小青盤四百個

小青碗二千個

右、暹羅国に咨す

洪熙元年（一四二五） 月 日

咨

1-40-03

琉球国中山王より暹羅国あて、南者結制等を遣わして速やかな交易を請う咨（一四二六、九、一〇）

琉球国中山王、酬謝の事の為にす。

近ごろ暹羅国の咨文二道を准くるに各々開す。本国の咨に、正使阿勃馬結制、並びに浮那姑是等を差わし、海船二隻に坐駕し、礼物を齎送して国に到り、及び番貨を収買して回国し用に備う、とあり。施行するを除く外、就ち回奉の礼物を順帶せしむるを蒙る、とあり。移咨して本国内に到る。

此に参迦するに上年より今に至るまで珍賂を回惠せらる。已に明らかに照数して収め訖るを除く外、今思うに、前後の恩、未だ謝を伸ぶるに由なくして、深く慚愧を負う。今、特に正使南者結

制等を遣わし、義字号海船一隻に坐駕し、貴国に前詣して奉獻せしめ、少しく酬謝の誠を伸ぶ。煩わくは四海一家を以て念と為さんことを。容納すれば万幸なり。更に煩わくは、今去く人員は胡椒・蘇木等の貨を収買し、回国して以て中国に進貢するに備うれば、早やかに打発を為さんことを。落葉として風迅に趁りて回還すれば便益ならん。今、酬謝の礼物の数目を明らかにして開坐し移咨す。施行せよ。須らく咨に至るべき者なり。

今開す

織金段五匹 素段二十四

硫黄三千斤 今二千五百斤正と報ず

腰刀五柄 摺紙扇三十柄

大青盤二十個 小青盤四百個

小青碗二千個

右、暹羅国に咨す

洪熙二年（一四二六）九月初十日

咨

注（1）咨文二道 その内容は、以下の「本国の咨に…」より注（3）まで。

（2）本国の咨 琉球より暹羅国に送った咨で、「正使…」より「用に備う、とあり」まで。

（3）順帶せしむるを蒙る、とあり 注（1）の終り。なお、ここ

の「蒙る」は、相手方の文の引用にさいして、その相手の行為などを琉球側が敬意をもって描写するときにしばしば用いる語である。

(4) 参迦 まじわり出会う。

(5) 洪熙二年 宣徳元年とあるべきところである。

1-40-04

琉球国中山王より暹羅国あて、実達魯等を遣わして速やかな交易を請う咨(一四二七、九、一七)

琉球国中山王、進貢の事の為にす。

為照するに、本国は貢物稀少なり。今、正使実達魯等を遣わし、勝字号海船一隻に坐駕し、磁器等の物を装載し、貴国の出産の地面に前倒して胡椒・蘇木等の貨を収買し、回国して応用せしむる除外、専ら礼物を備えて詣前し、奉献して少しく遠意を伸ぶ。仍お希わくは海納せよ。煩わくは、四海一家を念い、貿易を従容し、早やかに発するを為さんことを。風迅に趕趁して回国すれば便益ならん。今、礼物の数目を將て後に開坐す。須らく咨に至るべき者なり。

今、奉献の礼物を開し、後に開坐す

織金段五匹 素段二十四

硫黄三千斤 今二千五百斤正と報ず

腰刀五柄 摺紙扇三十把

大青盤二十個 小青盤四百個

小青碗二千個

右、暹羅国に咨す

宣徳二年(一四二七)九月十七日

1-40-05

琉球国中山王より暹羅国あて、浮那姑是等を遣わして速やかな交易を請う咨(一四二八、九、一二)

琉球国中山王、朝貢の事の為にす。

照得するに、本国は貢物稀少なり。此の為に今、正使浮那姑是等を遣わし、盤字号海船一隻に坐駕し、磁器等の物を装載し、貴国の出産の地面に前往して胡椒・蘇木等の物を収買せしむ。回国して謹んで大明の御前に進貢するに備う。仍お礼物を備えて詣前し、奉献して少しく遠意を伸ぶ。幸希わくは收納せよ。更に煩わくは、今差去する人船は、買売せしむるを容さんことを。早きに及びて打発し、風迅に乗趁して回国すれば便益ならん。今、奉献の礼物の数目を將て開坐し移咨す。施行せよ。須らく咨に至るべき者なり。